

着心地の良い衣服パターン設計（第2報）

— 静立時の衣服圧分布 —

文化女大家政 佐藤真知子 池田和子 ◯渡部旬子 宮川由香

目的：豊かさの時代と言われ、衣服の着心地に対する要望が高まっているが、衣服のパターン設計への応用につながる報告は少ない。また、着心地という感覚的な特性に対する定量的な計測技術もいまだ確立されていないのが現状である。

本研究は、被服構成学の立場から衣服の着心地を客観的に評価し、適切な衣服パターンへの知見を得ようとするものである。

第一報では、衣服圧分布計測システムの試作について報告した。本報では、着心地要因の一つである衣服による拘束量を衣服圧と捉え、手始めとして着用静立時の服全体にわたる衣服圧の分布状態に着目し、体型との関係を求めた。

方法：計測は、既報の衣服圧分布計測システムを使用した。これは、従来部分的な点圧として捉えがちであった衣服圧を60点のセンサーにより、服全体の衣服圧分布として評価していこうとするもので新しい評価法である。

既製服9号サイズに対応する身体寸法でありながら、体型差のある被験者に、同一ジャケットを着用させ、着用静立時の衣服圧を計測したものを2次元の等圧線図に表し、衣服圧分布図として比較検討した。

結果：着用静立時の衣服圧分布と体型との関わりは、肩部の形状によるものと、胸部の張りによるものについては、明瞭に図示された。